

2024年11月6日

令和6年度第2回海岸工学委員会 委員会議事録

開催日時: 2024年11月6日(水) 17:50-19:52 終了

開催場所: オンサイト(秋田アトリオン(第3会場))およびWeb(ZOOM)によるハイブリッド会議

出席者: [オンサイト]岡安相談役, 森委員長, 渡部副委員長, 北野幹事長, 荒木, 有川, 五十里, 入江, 岩前, 遠藤, 有働(内山の代理), 大井, 太田, 榎田, 小野, 織田, 柿沼, 加藤茂, 加藤(川崎の代理), 川崎, 木原, 桐, 久保田, 嶋原, 柴田, 鈴木, 高川, 田島, 中下, 中村, 西畑, 信岡, 原田, 比嘉, 保坂, 馬込, 宮本, 安田, 山城, 山中, 渡辺. [オンライン]秋山, 下園, 宮武.

議事録: 比嘉, 北野

■ 前回議事録の確認(WEB公開済)

■ 第71回海岸工学講演会論文審査

・山城委員より, 2024年度土木学会論文集特集号(海岸工学)について報告があった. 登録論文数:290編(過去5年: 219, 248, 258, 306, 321編), 通過論文数:289編(不採択1編), J-STAGE論文審査 本論文登録数:185編 本論文登録なし: CEJ 5編, CEJ以外 98編, 辞退1編 J-STAGE論文審査結果 通過論文数:176編(不採択9編) ※海岸工学講演会での発表数: 288, 176(本論文あり) +112(要旨のみ. CEJ掲載論文1編あり, プログラムにCEJ招待論文を付記. 通常号からの発表はなし)

・J-STAGE作業について説明があった. 著者による修正が必要な原稿 3編(受理日・採択日の日にちやフォーマットの誤り), 担当業者による修正が必要な原稿 3編(ヘッダ抜け, ページ番号抜け)あったことが報告された. J-STAGE公開は例年通り11月初旬(11月1日に公開) 日本語論文は土木学会論文集 Vol. 80, No. 17 英語論文はJournal of JSCE, Vol. 12, No.2に掲載済み.

・論文集編集 現状・検討課題について, 投稿中の論文の引用(→次年度も引き続き周知, 確認する), 論文フォーマット(→チェックリストを作り, 査読者に確認してもらうように検討中), 論文発表審査時の著者の入力間違い(→論文発表審査のGoogleフォームの入力の際に細心の注意を払って頂くように, 申し込み後に再確認して頂くように, ウェブサイトやGoogleフォームに記載する), 論文発表審査時の題目の入力(→論文発表審査時に, 和文の場合でも英文題目を入力して頂くようにする)の現状と検討課題が報告された.

・北野幹事長より, 著者負担金と論文集DVD価格について, 著者負担金40,000円(上限)(昨年まで35,000円)について値上げとなることが報告された.

・投稿数の推移について, 発表論文数が増えて行く可能性に対して, 次年度以降の論文発表審査および講演会のセッションでの発表時間を検討する必要があることが報告された.

・本論文の査読の担当数の統計結果(総勢111名)が報告された.

・論文投稿と査読に関する次年度に向けた改善として, 公平性を保つためにEditorial Managerで

の日数管理が負担になったため今後改善する。

・海岸工学論文集賞・奨励賞の選考のプロセス, 受賞者について報告された。本件についてはメール審議済み。

■ 第 71 回海岸工学講演会の準備状況について:

・渡辺委員から, 第 71 回海岸工学講演会の開催の状況が報告された。第 71 回海岸工学講演会では, 前日シンポジウム 119 名, また 10 月 6 日時点で第 1 から第 5 会場にておよそ 300 名の参加者であったことが報告された。なお, 開催後の事務局からの報告としては, 海岸工学前日シンポジウム(1):149 名, 海岸工学前日シンポジウム(2):146 名, 海岸工学講演会:561 名であった。

■第 72 回海岸工学講演会の準備状況について

・山中委員から, 第 72 回海岸工学講演会の準備状況について報告された。会期:11 月 25 日(火)~11 月 28 日(金), 開催場所:香川県高松市, サンポート高松シンボルタワー(サンポートホール高松会議室・かがわ国際会議場)(予約済み)にて開催されることが報告され, また, 実行委員会及び会場が紹介された。

・予算計画は, 会場費見込み(総計 1,630,920 円), 1 部屋追加する可能性があるため, 増額の可能性があること, 設営業者等はこれから検討することが報告された。

・企業展示の場所である国際会議場エントランスロビー, 前日シンポジウムで使用する部屋, 懇親会(11 月 27 日 JR ホテルクレメント高松(講演会会場横)19:00-21:00 飛天(半分、600m²)200 名)は予約済みであることが報告された。会費, 催し物, 来賓, 挨拶, 見学, アルバイト配置については現在準備中。

・会場について, 3 日目の第 5 会場は先約が入っているため使用不可であるため, 秋田よりも開始を 20 分早め, 終わりを 20 分遅くすることで秋田開催と同様の件数(290 件)まで対応可能であることが説明された。特別シンポ・招待講演が無い場合は最大 301 件まで可能であり, 論文数に応じて開始時間, 終了時間を調整予定。

■第 73 回海岸工学講演会の準備状況について

・山城委員より, 第 73 回海岸工学講演会の準備状況が報告された。会期:令和 8 年 11 月 10 日(火)~11 月 13 日(金), 開催場所:大分県大分市, 会場:ホルトホール大分(仮予約済み)で開催予定。

・ホルトホール大分会議室の環境と貸し出し備品について説明され, 実行委員会は, 2024 年 11 月現在, 山城(九大), 井手(九大), 池畑(日本文理大), 松下(西工大)が紹介された。

・現在の状況として, 小ホールは 11 月の予約が埋まりつつあるので会議室も含めて以下の日程で仮予約済みであり, 2026 年 11 月 10 日(火)前日シンポ, 2026 年 11 月 11 日(水)~13 日(金), 小ホールは 10 日 9 時~最終日で仮予約済。また, それ以外の会場は 10 日 19 時~13 日 19 時の時間帯で仮予約済。事務局、小委員会用の会議室は 11 日 9 時~13 日 19 時の時間帯で仮予

約済であることが報告された。

- ・使用料の概算と補助等について、現在の仮予約条件で使用料の概算は 100 万円程度であること、企業展示用エントランス使用料等、若干の別料金が発生する可能性があること、また、海岸工学講演会の規模だと大分市 MICE から最大 50 万円の補助金交付の可能性（述べ宿泊者数 400 名以上の場合）があることが報告された。

- ・懇親会は、会場の小ホールで飲食を伴った交流会が実施可能であり、同じ建物にイタリアンレストランがありケータリングができるため、小ホールでも懇親会が可能であることが報告された。

- ・懸念事項として、会議室の使用開始時刻が 9 時であるため、それ以前は準備で使えず、第 1 セッションが 9 時に開始できないこと、11 月 11 日～13 日以外の日程では小ホールが確保できない可能性が大きいこと、企業展示用のエントランスは大ホールの使用者に使用権限があり、開催期間中に大ホールを別なイベントで使用する場合にはエントランス使用不可になるため、その場合には別途展示用の場所を確保する必要があること、セミナールームで使用できるマイクは 3 本までであることが報告された。

- ・その他として、後援依頼は九州地方整備局、大分県、大分市を予定しており、見学会は九州地方整備局あるいは建設関連の産学官組織であるビルド OITA に相談することが説明された。アルバイトは大分大学、日本文理大学、九州大学、西日本工業大学の学生で担当し、不足する場合は要検討、懇親会をホテル等で行う場合は、別途予約が必要である。

- ・会場の大ホールは、どこかの団体が当日借りる可能性があり、その場合は大ホールの前が企業展示のスペースになっているため気を付ける。

- ・懸念点として、小ホールの椅子の片付けが必要な可能性がある。翌日は早朝から講演会を開始する場合はまた椅子を戻す必要があることが説明された。

■第 59 回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催について

- ・遠藤委員から第 59 回水工学に関する夏期研究会の開催状況について報告があった。参加者は A コース:30 名、B コース 37 名の計 67 名であり過去最低であったことが報告された。

- ・現状の形態で今後も開催する場合は 100 名の参加の必要があり今後検討が必要であることが説明され、また、開催案内、実施形態、懇親会の様子について報告された。

- ・夏期研修会における収入・収支が報告された。

- ・現状の参加者の状況として、民間企業からすると夏期研修会は若手の研修会というイメージがあり中堅の方が参加しづらいこと、また、最近は若手の参加者も少なくなっていることが課題であり、大学の学生からすると参加費が高いために参加しづらい可能性がある。

- ・開催の地域の方々に講義を担当して頂けると旅費が抑えられるメリットがある。

■第 60 回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催について

- ・山城委員より、第 60 回水工学に関する夏期研修会(Bコース)開催について報告された。テーマ

は「水工学におけるパラダイムシフト」(要検討), 開催日時は, 2025年8月28日(木), 29日(金), 会場は, 九州大学筑紫キャンパス(教室予約は来年3月), 開催形式は, 対面+録画によるオンデマンド(検討事項: 当日録画, 公開期間など)であることが報告された. 担当者は, Aコース: ◎渡部(九大), 矢野(九大), 丸谷(九大), Bコース: ○山城(九大), 井手(九大), 土木学会(事務局): 杉野さん, 学生アルバイト(運営, 会場準備, 誘導など)は九大で手配予定.

- ・九州大学筑紫キャンパスの教室の予約は, 来年3月にしか予定できず, 学内イベントの決定の後に予約が可能になるため, もしかしたら別の会場になる可能性がある.

- ・開催形式は, 対面と録画によるオンデマンドの予定しており, 参加人数は例年通り各コース120名としているが, Aコースからは現地参加者数を50名程度に制限し, あとはオンラインで出席する案が出ている. 参加費は一般16,000円, 学生10,000円であるが, 現地参加者は参加費を割引する案も出ている.

- ・懇親会は, 学食で立食形式にて実施する予定である.

- ・タイトルの「水工学におけるパラダイムシフト」が曖昧であるという意見があったため, 現在検討中である. また, 海岸と河川で同じテーマで依頼しているため, 1日は共通テーマのみで開催できる可能性がある.

- ・講演者依頼状況と現在の講演者依頼状況について紹介された.

- ・川崎委員から, 現地参加者は参加費を割引する案について, オンデマンドの方の参加費を上げる案もあり得るといった意見があった.

- ・渡部委員から, 東京のときの開催の際, オンデマンドは録画してサーバーに入れる方法の場合, その分のコストがかかるのではという意見があった.

- ・有川委員から, 講演会の内容として, 研修的な(体験的な)内容が入ればよりよい可能性があるのではという意見があった.

■Coastal Engineering Journal について

- ・内山委員の代理で有働委員より, Coastal Engineering Journal について報告された.

- ・2020年のデジタルコンテンツ重視導入効果の賞味期限切れにより, Citation数の漸減により, 2023年のIFが1.9になったことが報告された.

- ・2021年からの3年で被引用数が減ってきており, CEJの論文がCEJを引用しているというよりは, 他の雑誌がCEJを引用している数が多くなっている. 被引用数の半減期は約9.5年.

- ・数年前の環境系のスペシャルイシューで桑江先生がゲストエディターをされた影響で, 環境系の論文がリードしている現状が説明された.

- ・Open Accessの効果は, OA:36編→60被引用(1.67/paper), 非OA:74編→90被引用(1.22/paper), OAにより被引用率が1.22→1.67:37%高くなっている.

- ・今年発表されたCEJ論文, テクニカルレポートが紹介された.

- ・Progress of Ocean Wave Measurements, T&FのミスでSIに掲載できなかった1編と, 査読が間に合わなかった2編をSI掲載済みの12編に加えて計15編をArticle Collectionとして公開した

ことが報告された。

- Interdisciplinary Exploration of Coastal Morphodynamics, 投稿 20 編 (査読中 10 編うち 1 編招待論文, 却下 5 編, 採択済み 5 編) (Article collection に載せることができる) であることが報告された。
- The 2024 Noto Peninsula Earthquake Tsunami and Tsunamis in the Sea of Japan Region, 10/28 現在, 2 編採択済み, 1 編査読中であることが報告された。
- その他として, Morphodynamics SI の招待論文 1 編の APC 支出予定 (幹部承認済み) であること, また, CEJ Dinner at ICCE in Rome (田島先生・下園先生主催) が開催されたことが報告された。
- 嶋原委員から, 能登の Special Issue への論文投稿の依頼があった。また, 今回の海講参加者に本 Special Issue への論文投稿の意思をアンケートで確認したところ 10 名程度の方から今後出す予定との回答を頂いていることが報告された。
- 北野幹事長から, Royalty を頂いているので今後有効な使い方を議論する必要があるという意見があった。

■ 広報・出版・WEB 開催小委員会

- 嶋原委員から, サイト設定の修正, サーバー管理, ソフトウェアアップデートなどは本小委員会で引き継ぐことが報告された。
- メンバーの渡辺委員が退任され, 国総研の浜口委員が就任したことが報告された。
- Web 情報の充実に関して, 海岸工学関連の本の紹介 (おすすめ書籍), 海岸工学講演会関連, 海岸工学論文集データベース (更新終了), 若手の会, 小委員会, 研究会の情報更新 (随時), 災害 DB の順次補充, 海岸工学の魅力, 波浪や津波等の一般向け, サイト設定の修正, サーバー管理, ソフトウェアアップデートなどを充実させていくことが報告された。
- サイト設定の修正, サーバー管理, ソフトウェアアップデートは, これまで川崎委員が対応頂いていたが, 今後は広報・出版・WEB 開催小委員会を引き継ぐことになった。
- 2024 年度のプログラム (DVD) の状況として, 業界案内 22 件, プログラム広告 4 件, 企業展示 4 件となったことが報告された。
- 森委員長から, 企業の学生リクルートのブースを設ける件について, まずは企業の方に聞いてみて何件かあれば開催を検討すると説明があった。

■ 沿岸域研究連携推進小委員会

- 遠藤委員から, 沿岸域研究連携推進小委員会について報告された。今後, 海岸工学講演会の中で連携できることを進めること, また, 各関係学会にも声掛けして今後の企画を検討していくことが説明された。
- 副委員長は中下先生が担当することについて報告された。

■ 研究小委員会, 研究会, WG の活動について

- ・安田委員より、沿岸まちづくりにおける経済学的手法検討小委員会の活動について報告された。海岸工学講演会の前日シンポジウムにおいて、対面で 100 名以上の参加者がいたこと、その中で計画系の方が 25 名の方がオンラインで参加したことが報告された。
- ・計画系では継続したいという意向はあるが、6 月までに共同委員という形は一旦終了予定であるが、その後は有志を募って継続する予定であることが報告された。
- ・森委員長から、沿岸災害デジタルツイン研究小委員会の活動について報告があった。一環で能登半島地震津波の前日シンポジウムを開催し、100 名以上の参加があったこと、また、デジタルツインに関するアイデアは出てきたため、実際に研究プランを考えてプロトタイプとして研究費の公募に応募する考えであることが報告された。

■その他

サーバーセキュリティ対策特命 WG

- ・川崎委員より、海岸工学委員会サーバー管理状況について報告された。現在、さくらのレンタルサーバー(Web サーバー・メールサーバー 26,741 円、ドメイン 4,532 円)を使用中である一方で、論文投稿・査読システムサーバー(旧)43,560 円がかかっているが APAC で去年使用しており簡単に削除できない。Web サーバー・メールサーバー(旧)43,560 円については必要ないが、8 月 27 日に再契約をしてしまった。キャンセルした場合に月割りの支払いが可能か確認予定である。Web サーバー・メールサーバー(旧)は必要ないため解約予定であることが説明された。
- ・田島委員から、論文投稿・査読システムサーバーについては、APAC は 4-5 年後であるため、解約してよいのではないかという意見があった。解約する場合、来年度の 2 月の中旬頃を予定。
- ・川崎委員から、論文投稿・査読システムサーバーはセキュリティ的に問題があり、アップデートができない状態である。今後の管理のし易さを考えるとレンタルサーバーの使用の方がよいと考えられるといった説明があった。
- ・論文投稿・査読システムサーバーについては今後協議されることになった。
- ・今後の活動について、今後特命 WG は広報・出版・WEB 開催小委員会に移行することが報告された。

土論・編集調整会議からの連絡(ESCI 収載に関するアンケート)

- ・山城委員から、土論・編集調整会議について報告された。Journal of JSCE を ESCI に収載するために査読規定を整理しており、杏林舎というコンサルタントが入り、協議を重ねている状況である。特集号の英文論文も Journal of JSCE に掲載されることになっているため、通常号だけでなく特集号の英文論文も同じ査読規定で査読する必要がある。編集委員会が各特集号に 3 つの案が提示されており、どのように回答するか検討する必要がある。幹事会の際には案 3 で進めることになったが、10 月の編集委員会の際には 3 つの案が詳細に説明され、再度アンケートが実施されることになったことが報告された。
- ・案 1(杏林舎が特集号の投稿受付と採用後の対応を実施): Journal of JSCE に特集号を残した

い。→ Journal of JSCE(英文誌)の通常号の EM(特集号の EM ではない)を使う。→ Journal of JSCE(英文誌の通常号)の通常号 EM に特集号小委員会のメンバーを追加する必要がある。→実質的に英文誌特集号が案 1 は成立しない。理由:特集号小委員会の幹事・委員の通常号 EM への追加が実質的に難しい。

・案 2(投稿受付や体裁統一に関する指示書を小委員会に渡し、指示書に完全に沿った運用をしていただく):Journal of JSCE に特集号を残したい。→ 特集号の EM を使う。→ 杏林舎から投稿受付, 体裁統一の指示書を渡し, それらに完全に沿って運用。特集号小委員会の自由度が大幅に制限される。注意:Editorial board にある割合以上の海外の研究者を含めるなど, 様々な対応が必要。

・案 3(英文誌と特集号を切り分ける):Journal of JSCE(英文誌)から特集号論文を切り離す。→(英文誌用)特集号の EM は使うことができない。→ 特集号小委員会の編集を経て採択となった論文を掲載, 公刊する場所を, 特集号小委員会で別途用意する必要がある。水工は独自 EM, 海洋開発は EasyChair なので問題がない。Q: 委員会で使用料を支払えば使用できるか? A: 土木学会論文集から切り離された論文集は使用料有無にかかわらず使用できない。

・海岸工学委員会論文集編集小委員会では案 3 とすることが提案された。理由:案 1, 2 の対応は困難である。また, ESCI 収載論文集でなくてもスケジュールが決まった査読有論文集に投稿したいという要望がある。投稿された英文論文は、以前のように特集号に掲載できるようにしてほしい。→ 審議の結果, 案 3 で提出することが承認された。

海岸工学2040特命 WG

・渡部委員から, 海岸工学2040特命 WG について報告された。12月21日に cecom にて参加登録の案内があり, 12月28日時点で41名が登録。1月11日18:00~ オンライン説明会, 現在47名登録されている。

・将来ビジョン案「温暖化・気候変動への適応」, 「自然と共生する安定した海浜の形成」, 「持続可能な海岸防災技術の構築」, その中での海岸工学教育・コミュニティ強化について説明された。

省庁連携特命 WG

・田島委員から, 省庁連携特命 WG について報告された。これまでの開催状況は, 第一回:7月25日(17:30-18:00)@国土交通省 中央合同庁舎3号館(ハイブリッド)参加者47名(対面は官8名, 学7名), 第二回:10月25日(14:00~18:00)@東京都第二高潮対策センター見学会(対面のみ34名)+懇談会(現地36名+オンライン13名)+懇親会。盛況であり, 懇親会ありで年数回の開催を継続する方針であることが報告された。

・ハイブリッドと現場との意見交換会が少し難しいという課題がある。

・cecom に流すことはせず, 委員・幹事の皆様から広げていくことを検討している。

・森委員長から, 参加者が多くなりすぎるとハンドリングが難しくなるため, 現状の規模の維持が良いのではという意見があった。

・鈴木委員から、日程について平日開催だと大学の場合講義の関係で参加が難しいため、早めの日程調整や休み期間中等での開催を検討してほしいという要望があった。

海岸工学論文投稿査読新システム検討特命 WG・次年度以降の海岸工学論文投稿料

・北野幹事長から、海岸工学論文投稿査読新システム検討特命 WG・次年度以降の海岸工学論文投稿料に関して報告された。全ての査読と最終原稿を終えた後、4月最終週に投稿者と査読者にアンケートを実施した。複数の意見が出ており、特に今年度は、修正期間の公平性を重視し過ぎたため、次年度は、修正原稿メ切期日を固定する予定であることが説明された。アンケートにて出てきた意見は、今後反映させる予定であると説明された。

・現在の投稿論文のフェーズが分かるように website に表示する工夫を行ったことが報告された。

・今後、査読の負担の軽減のためにも、編集委員から主査への移行してもらうこと、また、編集委員に若手を起用する予定であることが報告された。

・投稿者からの意見として、一例として、要旨作成の際に英語だと文章が短くなってしまいう問題に関して意見があったことが報告された。講演要旨集では、日本語より英語の文章の方が長い、通常号に合わせる形であるためやむを得ないと考えている。

・海岸工学では主査が取りまとめを行うため、EM を使用する限りは Google Form を使用する必要があるため、次年度も使用する予定であることが報告された。

・次年度以降の海岸工学講演会発表&特別号(海岸工学)の著者負担金の考え方として、現状最大4万円としているが、今後大都市での講演会開催を想定して、2025年度より、Jstage 有:45,000円まで容認(不採択のEM費用負担が超過の場合、他で捻出)、Jstage 無:30,000円まで容認とする必要があることが報告された。

・最初の Google Form でプログラムを作成する際、タイトルが査読者の意見で変わる場合があるのではないかと。→ 査読の後に変更が必要なものに関しては対応しているが、発表のみの方でタイトルや氏名等での誤字脱字の可能性があったため、講演者は間違いのないように注意してほしい。

第4回日中土木学会ジョイントシンポジウム

・北野幹事長から、第4回日中土木学会ジョイントシンポジウムについて報告された。現在延期している状態であり、ビザの緩和まで延期する意見があったことが報告された。

ICCE2028 Japan

・森委員長から、ICCE2028@大阪が採択されたことが報告された。9月前半開催ということで申し込んでいたが、9月は台風のリスクがあるため、5月GW明けにする予定であることが報告された。大阪国際コンベンションセンターで開催することになっており、費用はレジストレーション12万円(800ドル)を予定していることが報告された。

その他

- ・土木学会の那須さんが人事異動し、杉野さんが新しく担当いただくことが報告された。
- ・水理公式集の例題集が最終稿のチェックに入っており、年度内には出る予定であることが報告された。

以上